

Collins COBUILD English Usage

第4版に見る現代英語と現代社会の変化

藤本 和子

1. *Collins COBUILD English Usage* 第4版（以下 *CCEU4*）が2019年に HarperCollins 社により出版された。同書の第3版は、2012年に出版されており、およそ7年ぶりの改訂となる。初版は1992年、第2版は2004年の出版であり、各版の改訂までの間隔がしだいに短くなっている。このことは、テクノロジーの発達による改訂作業の効率化も関係しているであろうが、現代社会と英語の変化のスピードが増していることも思わせる。社会とともに変化していく英語の姿を、記述に反映させていくことは、*CCEU4*のような語法書の重要な役目である。*CCEU4*は、英語学習者に現代英語の語法を示してくれる。同書は、CEFRのB1レベル以上の学習者を対象としている。

Founding Editor-in-Chiefであった John Sinclair の逝去の後、第3版からは、Penny Hands が Managing Editor を務めている。*CCEU4* の裏表紙の紹介文には、“Comprehensive new edition, updated based on corpus research of authentic English” とある。*CCEU4* は、毎月更新される 45 億語の the Collins Corpus¹ の分析に基づいて、記述がなされており、Corpus Research 担当として、同版において、Julie Moore の名前が明記された。

¹ Collins Learning. (2021). *Collins*. Retrieved April 11, 2021, from <https://collins.co.uk/pages/elt-cobuild-reference-the-collins-corpus>

第3版と第4版を比較してみると、*CCEU4*の改訂の主な特徴として、(a) “Language change and society” セクションの新設、(b) 社会と英語の変化を映し出す用例への変更、(c) 語法記述の更新の3つが挙げられる。“Language change and society” セクションでは、過去10年間の英語語法の変化の広範な調査に基づき (*CCEU4*, p. IX)、New words: innovation and creativity、The language of identity and gender、The language of mental health and disability、The language of social mediaの4タイプの内容が扱われている。第4版における用例の変更には、現代社会と現代英語の変化と、それらに対応する編集方針も見ることができる。さらに、第3版と第4版の本文中の語法の記述の違いを調べることで、現代英語の変化の様子をつかむことができる。本稿では、*CCEU4*の上記3つの主な特徴について、およそ10年という間に、現代社会の変化とともに現代英語がどのように変化しているかについて見ることを目的とする。

2. *CCEU4*は、どのような現代英語の変化と現代社会の動向を提示しているだろうか。第1章で述べた改訂の3つの主な特徴、つまり、新設された “Language change and society” セクションの内容、第4版での用例変更、そして第3版と第4版の語法記述の変化について、それぞれ、2.1-2.3で見よう。

2.1 “Language change and society” は、本体後部に設けられたセクションで、第1章で述べたように、New words: innovation and creativity、The language of identity and gender、The language of mental health and disability、The language of social mediaについてまとめられている。ここでは、紙幅の都合上、新語、アイデンティティ、ジェンダーについて、どのような英語表現があるか見てみよう。

2.1.1 社会の変化とともに、次々に新たな語が形成される。*CCEU4* (p. 692)が述べているように、全くもって新しい語が生まれることもあれば、既成の語が、従来とは異なる用い方をされるようになることもある。本セクションでは、主に後者のものについて、接頭辞や接尾辞を既存の語に付けた結合形によるものや、既

存の語を新たな品詞で用いるものが掲載されている。

CCEU4 (pp. 692-693)によると、新語形成で既存の語に付けられる接頭辞は、**crowd-**と**up-/down-**の頻度が、過去5年間の間に急上昇しており(e.g., **crowdfunding**, **crowdsourcing**, **upvote/downvote** (= “click on a particular icon to show that you like or dislike a post”)), 接尾辞で最近よく用いられるものは、**-less**と**-free**であり、**-less**が、しばしばテクノロジーに関係する形容詞中で、**-free**が、しばしば環境や食物に関係する形容詞中で用いられる(e.g., **wireless**, **driverless**, **carbon-free**, **GMO-free**²)。

既存の語が他の品詞で用いられるものには、CCEU4 (pp. 693-694)には、商標名がウェブサイトでよく用いられるようになり、本来、名詞である商標名が、動詞として用いられるようになっているもの(e.g., **google**, **WhatsApp**³)、広告において形容詞が名詞として用いられるもの(e.g., *Spread the happy*. (Nutella®)), 冠詞が付かない名詞が後続する前置詞としての**because** (e.g., *Why bother discussing this? Because language.*)⁴が掲載されている。

このように、新語には、インターネット関連のテクノロジー、環境問題、食文化などの社会や社会の動向に関するものが多く見られる。既存の語が、新たな品詞を獲得して使用されると、その語のとり文法構造も変化する。ただし、名詞と

² GMOは、genetically modified organismの頭字語。

³ CCEU4 (p. 693)の商標名が動詞として用いられる場合の綴りについての説明は、興味深い。語頭の大文字と小文字の綴りにバリエーションがあり、商標名が動詞として英語になじめばなじみほど、語の最初の文字が小文字で綴られる傾向があるという。CCEU4の用例には、*Why are you asking this here when you can just google the answer?/I WhatsApped my husband to say I'd be late.* (p. 693)のように、**google**は小文字で、**WhatsApp**は大文字で始まる綴りが用いられている。**WhatsApp**は、語中にも大文字Aがあるため、どのような綴りのバリエーションが見られるか観察するのも面白いだろう。

⁴ **Because**に後続するものとして、形容詞 (e.g., *Not bothering with this. Because lazy.*)と動詞の-ing形 (e.g., *Not going out tonight. Because working.*)も掲載されている(p. 694)。

して用いられる形容詞のように、広告英語などの特定の言語使用において用いられることに注意したい。前置詞の働きをする **because** は、主節を伴わない断片文の用例が掲載されていることから判断して、くだけた英語において用いられるのではないだろうか。これらの用法についても使用場面やフォーマリティについての記述がなされると、学習者にとって、より有益な情報になるであろう。

2.1.2 アイデンティティとジェンダーに関しては、CCEU4は、現在の英語使用傾向の調査により、“some major changes in the way we talk about identity and gender, reflecting how important these areas of our lives have become, and how much more tolerant of differences we are” (p. 695)が明らかになったと記述している。このことは、近年、様々な日常生活の場面や、マスメディアの報道などにおいても感じられることであろう。

CCEU4 (pp. 695-696)には、このような社会の変化や動向を反映する英語表現の例が掲載されているので見てみよう。まず、**identify as**のように、従来、通例、他動詞として用いられてきた*identify*を自動詞として使用する新たな用法である (e.g., identify as a feminist/republican/democrat/liberal/conservative; identify as an atheist/Christian/Muslim; *Sam began identifying as a woman four years ago.*)。用例からは、**identify as**の後ろには、文化、政治、宗教、性に関するグループやカテゴリーを表す語が用いられていることが分かる。ジェンダーに関するものとして、**gender**の連語表現 (e.g., binary/cis/trans/non-binary gender; gender-neutral/fluid; gender identity/dysmorphia/reassignment) や、**non-binary** (e.g., *Last year the company allowed employees to tick a non-binary option for gender on staff surveys.*) や **transgender** と **trans** (e.g., *I have a friend who is transgender and she gets asked this a lot. /Are you suggesting that being trans is a choice?*) のような語が掲載されている。ジェンダーというものは、固定していない、あるいは男性と女性のいずれのカテゴリーにも属さないという考え方の広がりや、そのような動向が話題に取り上げられる社会になっていることが感じられる。頭字語である **LGBT** (“lesbian, gay, bisexual, trans”) や、後ろに、さらに

文字を加えた**LGBTQ**（“q”は、“queer”）や**LGBTQIA**（“I”は、“intersex”、“A”は、“asexual”）なども、日本でも用いられるようになっているが、性の捉え方の多様性を表している。

ジェンダーに関する表現について、社会的な動きが文法をも変化させていくものとしては、複数代名詞の**they**、**them**、**their**が、“a specific individual who identifies as non-binary or gender-fluid”を表して、単数代名詞として用いられる用法が掲載されている（e.g., *Jo lives in London. They work in marketing. / Alex has just arrived. They’ve brought their dog!*）。社会の変化が、文法までも変化させることは、人間社会と言語の密接な関係をあらためて考えさせられる。さらに、新たな語 **xe** と **ze** が、“gender-neutral”代名詞として使用される用法も挙げられている（e.g., *I’m not giving the option of ‘xe/xir/zir etc’ on a driver’s license. / I’ve heard people mention xe/xir before but I’ve never actually heard of someone wanting people to use it to refer to them. / Xe is a really good artist.*）。

このような新たな“gender-neutral”代名詞の用法を学習者への指導に取り入れるかどうかは、学習者の学習段階や学習目的にもよるであろうが、これらの用法がどの程度、一般に定着しているかということも大きな目安になるであろう。新たな“gender-neutral”代名詞の用法について、Cawte (2019b)⁵ のコメントが参考になる。

In a more gender-fluid society though, the question of gendered pronouns still seems to remain unsettled. While there have been attempts to introduce new gender-neutral pronouns (such as **ze** or **xe**), our survey suggests that these remain somewhat limited in use, appearing mostly in discussions specifically about gender-neutral pronouns or within relatively small communities. More widespread is the use of *they/them*. *They* has long been used as a gender-neutral

⁵ Cawte, C. (2019b, November 18). COBUILD English Usage 4th Edition: Gender and Identity. *Collins English Language Teaching*. <http://news.collinselt.com/2019/11/>

pronoun to refer to any person:

*If anyone has any questions, **they** can ask me later.*

It is now, however, becoming more commonly used to refer to a specific individual who identifies as gender-neutral:

*Jo lives in London. **They** work in marketing.*

引用中には、“gender-neutral”代名詞の用法には、不安定な要素があることが述べられている。とりわけ、1つ目の **xe** と **ze** は、“gender-neutral”代名詞についての議論や、比較的小さなコミュニティで用いられるというように、使用場面や状況が限定されていることから、指導において、これらの語に言及する際には、このような情報も同時に学習者に伝えたい。2つ目のいわゆる singular “they” と呼ばれる *If anyone has any questions, **they** can ask me later.* のような **they** は、現在、広く英語教材にも見られるだろう。3つ目の “a specific individual who identifies as gender-neutral” に用いられる **they** も、上記引用部からは、より一般的に用いられるようになってきていることが分かる。このことは、non-binary “they” が、Merriam-Webster 辞典の Word of the Year for 2019 に選ばれたことから明らかであろう。⁶ 今後、**xe** や **ze** がどのように定着していくか、そして、non-binary “they” が、どのようにELT教材でも用いられていくか観察したい。

2.2 第4版の用例は、過去10年間の社会や英語の変化を反映してアップデートされている。

2.2.1 Cawte (2019a)⁷ は、CCEU4のManaging Editorである Penny Handsが行っ

⁶ Merriam-Webster, Incorporated. (2021). *Merriam-Webster*. Retrieved April 11, 2021, from <https://www.merriam-webster.com/words-at-play/word-of-the-year-2019-they/they>

⁷ Cawte, C. (2019a, November 4). COBUILD English Usage 4th Edition: updating the examples. *Collins English Language Teaching*. <http://news.collinselt.com/2019/11/>

た用例の変更について紹介している。Handsは、第3版の時代遅れになった用例を5つのカテゴリー (i.e., technology、women、old-fashioned language、toilets、American English/British English)に分類している。Toilets以外については、具体的な例が挙げられているので、それらの中からいくつか見てみよう。⁸ Technologyとwomenのカテゴリーは、矢印の前が第3版の用例で、後ろが第4版でアップデートされたものである。

Technology

- (1) Is there a phone anywhere? → Is there a place to eat anywhere round here?
Cawte (2019a)
- (2) When you get your daily paper, which page do you read first? → When you start up your computer, which application do you go to first? Cawte (2019a)

例文(1)のphoneはおそらく公衆電話であろう。テクノロジーを代表する携帯電話が普及して、公衆電話を使用するということが一般に少なくなった現代社会を考慮しての変更であろう。(2)は、情報媒体が、新聞からコンピューターへ変更されている。

Women

- (3) I think a woman has as much right to work as a man. → I think a child has as much right to respect as an adult. Cawte (2019a)

⁸ Kokawa et al. (2020)は、*Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary (CCALD)*の第8版(2014)と第9版(2018)を比較して、第9版における用例の変更の分析もしている。分析結果には、本稿で見るCCEU4で行われた用例変更と同様の変更は報告されていない。CCALDもCCEUも同じHarperCollins社から出版されており、CCALDのほうが、CCEUよりも1年早く出版されている。CCALDとCCEUは、いずれもFounding editor-in-chiefは、John Sinclairである。両者は、辞書と語法書という違いはあるが、いずれも英語学習者向けの文献である。

- (4) Women must have equal status. → All citizens must have equal status. Cawte (2019a)

Womenのカテゴリーに関しての用例変更に関して、Cawte (2019a)に掲載されているHandsの用例変更についてのコメントは、編集上の裏話のようで興味深い。第3版の用例には、侮辱的ではないまでも、女性に言及されたものが数多くあり、それらの用例を変更するのに、Handsは、*woman/women*を*child/children*に頻繁に置き換えていたことに気づいたというのである。確かに、(3)において、*woman*の代わりに、*child*が用いられている。(4)のように、*women*が、*all citizens*に置き換えられたものもある。

Old-fashioned language

- (5) How do you do?/What fun!/How marvellous!/How dreadful/What a nuisance など Cawte (2019a)

Old-fashionedとみなされるこれらの表現について、Cawte (2019a)には、使用場面や文脈などへの言及がない。これらについての詳細な説明記述があれば、英語学習者に役立つ情報となるであろう。

American English/British English

- (6) fries/apartment/Sure/consult with/I guess so など Cawte (2019a)

Cawte (2019a)によると、アメリカ英語とされていたものが、もはやアメリカ語法特有のものとは言い難くなったために、用例の差し替えがなされている。表現によっては、アメリカ英語とイギリス英語の境界線が、しだいに明確ではなくなっていることがうかがえる。

2.2.2 ここでは、2.2.1のCawte (2019a)で取り上げられていない用例変更につい

て見てみよう。第3版と第4版の本体全ページの用例を比較した結果、用例変更の理由として、2.2.1のwomanのカテゴリーに関連するジェンダーへの配慮、偏ったものの見方の押し付けの回避、社会階層への配慮などが考えられるケースがある。これらは、英語自体の変化というよりも社会や社会動向への配慮によるものと言えよう。いくつか例を挙げてみよう。矢印の前が第3版の用例で、後ろが第4版でアップデートされたものである。カッコ内は、用例が掲載されている項目である。

(7) *He* had gotten very successful since *she* last saw *him*. → *She* had gotten very successful since *he* last saw *her*. [**gotten**]

(8) *He* earns a lot more money than *she* does. → *She* earns a lot more money than *he* does. [**lot**]

(7)-(8)は、CCEU4で、*he*が*she*にそのまま置き換えられた例である。一方、(9)のように、*she*が*he*に変わった用例もある。このような代名詞の置き換えの中には、ある用法を説明するために複数の用例が掲載されている場合に、*he*と*she*をもつ用例数のバランスをとるためではないかと思われるケースが見られる。

(9) *She* finally agreed to come to the club on Wednesday. → *He* finally agreed to come to the club on Wednesday. [**agree**]

(10)-(11)では、第3版の用例は、男性、あるいは母親というものが、そういうものであるという印象を学習者に与えてしまうかもしれない。第4版での変更により、ある見方を、あたかも一般論であるかのように提示することを回避できるであろう。

(10) *A man* always remembers *his* first love. → *You* always remember *your* first love. [**always**]

- (11) It is certainly normal for a mother to want to take care of her own baby. → We attended classes to learn how to take care of our baby. [**care**]

これらからは、語法書や辞書の用例の意味内容への配慮の重要性を考えさせられる。Stamper (2018, p. 132)は、Merriam-Websterの辞書編集者として、辞書の用例について、注意すべき点の一つに、“You must avoid any hint of perceived bias anywhere in the verbal illustration”を挙げている。例えば、*the conservative party blocked the measure*のような用例は、“people who identify as conservative are obstructionist”のように解釈されてしまいかねないと述べている。

(12)のような社会階級への言及を削除した用例も見られる。

- (12) *Every middle-class child gets far too many toys.* → *The children get far too many toys.* [**far**]

2.3 第3版と第4版の語法記述に変化がある項目について、いくつか例を挙げてみよう。項目名は、CCEU4のものを言い、引用中の破線は筆者による。

アメリカ英語がイギリス英語でも用いられるようになっている語法の例として、**consult with**や**lorry-truck**が挙げられる。


(1) **consult**

CCEU4 You can also say that you **consult with** someone.


The Americans would have to consult with their allies about any military action in Europe.

They consult with companies to improve worker satisfaction and productivity.

アドバイスなどを求めて誰かに相談する場合に、**consult**を他動詞ではなく、自動詞として、**consult with**の形で用いる上記の用法は、第3版では、アメリカ

英語であることを示すシンボルが付されており、“Some speakers of American English say **consult with** instead of ‘consult’.”のように説明がなされていた。しかしながら、第4版で、アメリカ英語であることを示すシンボルが取り外されたことにより、イギリス英語でもこの用法が広がっていることがうかがえる。

(2) lorry-truck

CCEU4  In American English, and increasingly in British English, a vehicle like this [“a large vehicle used for transporting goods by road”] is called a **truck**. In British English, small open lorries are sometimes called **trucks**.

A blue truck drove up and delivered some boxes.

第4版で、破線部の記述が付け加えられた。本来アメリカ英語であった**truck**が、イギリス英語でもしだいに、“a large vehicle used for transporting goods by road”の意味で、**lorry**の代わりに用いられるようになっていたことをつかむことができる。

語と文法に関係する項目としては、**research**が挙げられる。

(3) research

CCEU4 Some people, particularly those whose first language is not English, use **research** as a countable noun with the same meaning as ‘a piece of research’. While this usage is still not regarded as standard English, it is becoming increasingly widely used across the world.

Can you send me a link to a research on this?

第4版において、上記の記述が、新たに付け加えられ、第3版にあった、“Don’t

talk about ‘a-research’.”という、*a research*が誤用であるとする記述が、第4版で削除された。上記引用部からすると、‘a piece of research’の意味で、**research**を数えられる名詞として、*a research*のように用いることは、英語を母語としない人々から始まり、まだ標準的とはみなされていないものの、誤用であるとは言えないほど、今では、広く世界中で使用されていることが分かる。

社会に関するものとして、障害者についての**disability-disabled**を挙げてみよう。

(4) **disability-disabled**

CCEU4 People with a restricting physical, mental health or behavioural condition prefer the term **person with a disability**.

Those who will gain the most are people with disabilities and their carers.

Many people use the adjective **disabled** to describe someone who has a condition that restricts the way they can live.

... issues that disabled people encounter in the workplace.

Generally, though, it is considered more respectful to talk about a **person with a disability**. This expression puts the person first, rather than defining them by their condition.

第3版では、項目名は、**disabled-handicapped**であったが、第4版において、**handicapped**が削除されて、**disability-disabled**となった。第3版において、障害をもつ人に対して、**handicapped**を用いることは、“offensive”であるとみなす人が多いという記述がなされていたことから、現在、**handicapped**が使用されなくなっていることが分かる。第4版の説明記述によると、*disabled people*よりも *a person with a disability*のように、最初に「人」を用いることにより、その人に対する敬意が表される。第3版にも、この表現方法について、“The most sensitive ways of referring to people with a restricting physical condition

are to call them **people with disabilities** or **people with special needs.**”との記述がなされていたが、第4版において、語順とその理由についての記述が入り、より詳しいものとなった。社会的配慮と言葉遣いについてあらためて考えさせられる。

3. 本稿では、*CCEU3*と*CCEU4*を比較することにより、*CCEU4*の新たな特徴と用例や語法記述の変化を見た。*CCEU4*が映し出す10年間の英語の変化を見て、あらためて、人間社会と言語がいかに密接に関係しているかということを考えさせられる。言い換えれば、言語は、社会の変化や動向、人間のものの見方を反映していると言えるであろう。目まぐるしく変化する社会の中で、今後も英語がどのような変化を見せていくか観察していきたい。

References

- Cawte, C. (2019a, November 4). COBUILD English Usage 4th Edition: updating the examples. *Collins English Language Teaching*. <http://news.collinselt.com/2019/11/>
- Cawte, C. (2019b, November 18). COBUILD English Usage 4th Edition: Gender and Identity. *Collins English Language Teaching*. <http://news.collinselt.com/2019/11/>
- Hands, P. (Ed.). (2012). *Collins COBUILD English Usage* (3rd ed.). Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Hands, P. (Ed.). (2019). *Collins COBUILD English Usage* (4th ed.). Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Kokawa, T, Aoki, R, Takahashi, R, & Ikeda, K. (2020). An analysis of the *Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary of English*, Ninth edition. *LEXICON*, 50, 42-108.
- Stamper, K. (2018). *Word by word: The secret life of dictionaries*. New York: Vintage Books.
- Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary* (8th ed.). (2014). Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary* (9th ed.). (2018). Glasgow: HarperCollins Publishers.